

01 まちづくりの実践

発表者：上田明穂・岡村純佳（生命環境学部地域社会システム学科2年）,青木詩水・岩澤詩恵莉・上田工
 レンヒカル・萱沼杏菜・菊池永佳・佐藤咲季・菅原梨菜・藤澤かな子・堀内美優・山本夏愛・遠藤美里・駒野響子・山本知沙（同学科3年）,曾根愛海（同学科4年）,犬塚夏海（同学部食物科学科2年）,後藤理那・齋藤梨央・下田万葉（同学科3年）,XU RUICHEN（生命環境学専攻修士1年）
 担当教員：大山勲（生命環境学域：景観&観光&防災まちづくり、都市農村計画・景観デザイン）

プロジェクトの概要

学科・学年および氏名五十音順、学年は2021年4月現在

テーマ：地域資源を発掘しそれを活かす地域活性化を実践する

活動：【資源発見と課題抽出】現地調査
 【課題解決の現場と哲学を体得】先進地視察
 【検討】資源を活かし課題を解決する企画案を検討
 【実践】対象地を決定し、地域の方と企画案を実行
 【成果発表と交流】地域への還元・先進地との交流

◎地域の持続的な活性化を考える【地域のためになることを考える】
 ◎主役は地域。学生のみでの企画や実行はしない。地域の方々（住民、行政、企業）と一緒に考え、地域の方々と一緒に実践する【まちづくり】（=企画に留まらず実践する。）
 ◎先進地視察ではその風景の背景を考える【人づくり】

2020年度の対象地と活動 身延山門内地区まちづくり(聖域を壊さない観光と商店街活性化を考える)

新型コロナウイルス感染症COVID-19のため、地域への学生の受け入れが困難な中、身延山地区が受け入れてくれました。地元の方々の要望は「ここは聖域であり、信者さんを大切にしてきた場所。信者さんが年々減少し一般の観光客が増えてきているが、俗的な観光地化はしたくない。聖域と本物性を大事にした持続的な地域づくりをしたい」。学生さんに期待することは「①聖域を感じたい個人客向けのまち歩きコースづくり」「②三門前や商店街の景観整備案」「③商店街の土産物・食・体験へのアイデア」「④信者さんだけでなく個人観光客・若者観光客の方々に向けた身延山地域の魅力発見とその発信」。昨年度はイベントの実践はCOVID-19のため難しく、調査・体験・発信が活動の中心になった。



先進地視察

甲府市内で建築物や広場空間の再生・利活用による地域活性化に取り組んでいる「甲府リノベーションまちづくり」の方々のお話を聞き、現地を見学した。

出会いがきっかけで山梨県立大学学生の旧伊勢町プロジェクトにも参加

甲府リノベーションまちづくり (地域資源の活用を学ぶ)

山中湖やまなかまちづくり実行委員会

地域資源を活かしてフットパスコースを作った山中湖を視察

2021年度の活動
 本プロジェクトは「地域住民や行政の方々との関わり」「地域の現場に足を運ぶ調査」「先進地視察とそこでの人の関わり」「イベント等の実践」を重視して進めてきました。COVID-19下ではこのような人との関わりや視察旅行やイベント開催は厳しい状況になり、どうしても個人や少数チームによる自主的な活動が中心になりそうです。昨年度も地域資源の把握までとなり、今年度への継続となりました。自発的教養科目は複数年度に渡って活動できますので、少し気長に取り組んでください。今年度も学生の受け入れを承諾していただいた身延山地区での活動を継続していく予定ですが、もし状況が好転した場合には、活動を広げていきたいと思っております。下のCOVID-19以前の過去の活動を参考にして下さい。

過去の活動・対象地(例)		過去の先進地視察(例)		
フットパス・自転車観光・縁側カフェ (富士河口湖・甲州・南ア) 	ワークショップ (昭和など) 	■景観&観光まちづくり：草津温泉、松本、忍野小湊、小値賀島、栃木、三島、鎌倉、滋賀針江別府、金沢、富岡、富士吉田、川越、伊勢志摩 ■伝統的町並保全：海野、奈良井、京都、伊根、竹富島、内子、知覧、函館、金沢、木曾、飛騨 ■マルシェや食：甲州、山梨、笛吹、酒田、青森 ■フットパス・まちあるき：北九州市立大学、佐賀大学、町田、長崎、熊本美里、勝沼	■子どもの遊びからの郷土教育 (市川三郷、南ア、北社) 	■古民家リノベーション (北社)